

# 2022 DISCLOSURE

The first half of the year

## 2022年度上半期業績の概報告

参加企業49社、若者109名により「地域同期会」を発足  
若者たちのネットワークづくりによる雇用定着を促進！



本店会場



石打会場



五日町会場



津南会場



小出郷会場



魚沼の  
塩沢信用組合



# 理事長あいさつ

魚沼の  
塩沢信用組合  
理事長 小野澤 一成



当組合は「平成」から「令和」へと元号が変わった時に、新時代を象徴する言葉として、「スケールメリットの終焉」と『スモールメリット新時代の到来』と表現してきました。

これからの時代は、「大きくて強いもの」が生き残るのではなく、「小さくてシナヤカな（変化に対応する）もの」の時代と宣言しました。

当組合では、2023年9月19日に『ゆきぐに信用組合』に「名称変更」し、営業エリアも「小千谷市」と「松代、松之山」長野県の「栄村」を加えた、7市町村とします。（一部「長岡市」旧川口町地区含む）

全国でも稀に見る「豪雪エリア」であり、文字通り「雪国」と言えるところです。7つの地区の中には、残念ながら「金融過疎地域」と言われるところがあり、すぐ身近に「金融機関」が無く、不便している人たちがいます。そのお困りの人たちを「排除」しないことが自分たちの使命であり、誰かがやらなければならない『世のため、人のための仕事』を私どもでやることを決めました。

7つのエリアを結んだ『ゆきぐに経済圏』構想は、『ゆきぐに信用組合』が中心となり、7地区の連携により、物流や人流を活発化させることで、その魅力を内外に示し、価値を倍増させる計画です。

商品やサービスの単体での魅力やキャパシティに限りがあることから“知名度”不足が生じています。それを補うことが出来る「地域連携」を当組合が手助けして、「魅力ある経済圏」づくりを目指します。

第一に掲げるのは『人』についてです。「人的資産」「人的資本」と言われるところへもっともっと投資する必要があると考えています。

私どもはこの“雪国”と運命共同体です。

多くの方から、この地域に『ゆきぐに信用組合』があって良かったと思っていただけるように、そして“ゆきぐに信用組合”の組合員であること自体がステータスと感じていただけるように頑張ってまいります。

何卒、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますことをお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。





# ● 2022年度「半期」事業報告

(2022年10月6日)

(自：2022年4月1日～至：2022年9月30日)

## 1. 事業の概況

4月8日(金)に『新潟日報の鮭プロジェクト』から、企画取材を受け、当組合の取組みがネット紙面で紹介され、若者重視の施策が注目されました。

4月12日(火)は、全店営業車両20台を一堂に集めて、南魚沼警察署の交通課長からお越しいただき、『安全運転宣言』と車両点検を実施し、もしも事故に遭遇した時の対応を学びました。当組合の営業職員は、子どもやお年寄りの『安全見守り機能』を有しており、そのことを全員で確認しました。

4月30日(土)に「新入職員・入組式」を父兄同席のもと開催しました。

当日は、春の「職員大会」として、職員全員が一堂に会した中で、「新入職員」は、全員から祝福され、一気に全店の役職員の仲間入りを果たしました。

5月20日(金)は、NY県人会の大坪会長と3年ぶりの会食を実施しました。

5月23日(月)は、「京都産業大学」にて『理事長講座』が開講され、京都までリアル出張しました。京都では修学旅行も再開しており、人の流れはどんどん増えていっていることから、店舗の経営者は、早めに「店員等の確保」と「販売品の品揃え」を実施し、本格的な観光需要に備えようとしていました。

6月21日(火)「通常総代会」を「南魚沼市民会館・大ホール」にて開催、当組合に取りまして歴史的な一日となりました。「通常総代会」では、「名称変更」と「地区変更」を同時に実施するための「定款変更」に関して、ほぼ満場一致のご承認をいただきました。

その模様は、新潟日報はじめ日本経済新聞、金融専門紙のニッキン、全国信用組合新聞、地元の妻有新聞、雪国新聞、そして「NHK」のニュースが話題として取り上げてくれました。

多くの方が知るどころとなり、その後は、新たに拡大しようとする地域を含め、各方面からお問い合わせをいただき、その反響の大きさに驚きました。

総代会終了後に京都産業大学の「松本和明」教授による『越後の偉人たちに学ぶ』と題した特別講演会を開催しました。

6月28日(火)新潟県信用組合協会の通常総会が開催され、当組合の小野澤理事長が第12代の県協会会長に就任しました。

6月29日(水)全信中協の「通常総会」並びに全信組連の「定時総会」が開催され、小野澤理事長が、全国20人の理事に選出され、さらに全国「9人」の地区代表にも選出され就任しました。

7月1日(金)当組合の13年連続好決算を記念して「南魚沼市」へ寄付金100万円の贈呈と、「地元貢献6団体」へ表彰状と金一封を差し上げました。

7月7日(木)「第1回・地域同期会」を5か所の会場で同時に開催、全会場をオンラインでつなぎ、参加者は49社から計109名でした。若手社員の離職を防ぎ、地元如若者が定着してくれることを目的に実施しました。参加者からは継続開催の要望が強く、早々に「第2回目」の開催を予定しています。

7月23日(土)に「緊急連絡網」と「防災訓練」実施。地域住民と地元消防署の協力のもと「消火訓練」及び「救急救命訓練」を実施しました。

8月7日(日)「はばたき奨学金」で支援する高校生を対象に初の「思い出づくり日帰りバスツアー」を実施、奨学生とその家族の計20名が参加しました。

8月15日から9月9日まで「杏林大学」の学生3名と、8月29日から9月2日まで「京都産業大学」の学生2名を当組合初の「インターンシップ」として受入れました。杏林大学の学生からは、「ゆきぐに信組」のCM作成を、京都産業大学の学生からは、二つの営業店にそれぞれ配属し、実際に窓口業務などを体験してもらいました。

9月2日(金)は、南魚沼警察署と小出警察署の協力を得て、「防犯訓練及び特殊詐欺防止訓練」を実施、オンラインで全部店を結んで開催しました。

離れた場所でも臨場感が伝わり、もしもの時の対応が確認できました。

地元では、3年ぶりに「夏祭り」や「花火大会」が開催され、ようやく日常が戻りつつあります。4回目のワクチン接種が開始され、抗原検査キットを使って自分で検査するなど、感染者の全数把握の簡略化に伴い、いよいよ地元経済をいかに回していくということが課題になってきます。

当組合では既存のお取引先の業況の悪化を防止するための取組みにかなりの時間と労力をかけています。

しかし、指し示す方向や手段を間違うとなかなか実感を伴う手応えに至らないことから、当組合では事業者との対話に時間をかけ、互いの理解を深めて、多少強めの言い方でやってほしいことを伝え、実行していただいております。

やがてやってくる「返済負担の倍返し」に備えることと、営業努力、経営努力がようやく報われる兆しが見えてきています。

この地域に『ゆきぐに信用組合』があって良かったと多くの方から思っていただけのように、そして“ゆきぐに信組”の組合員であること自体がステータスと感じていただけるように頑張っ参ります。

今期の決算に関して、順調に推移しており、これも偏に総代はじめ組合員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、役員職員一同感謝すると共に、引き続きのご支援をお願い申し上げ、半期の『事業報告』といたします。

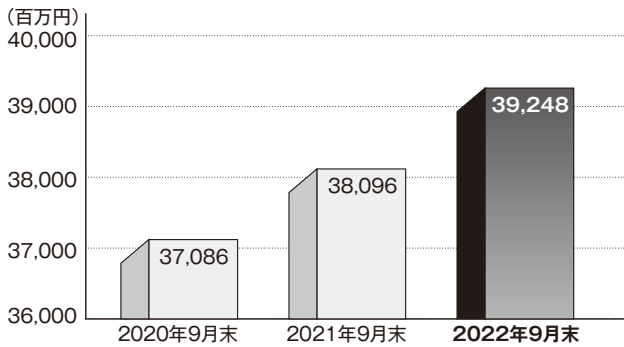
以上

# 2022年度「半期決算」の報告

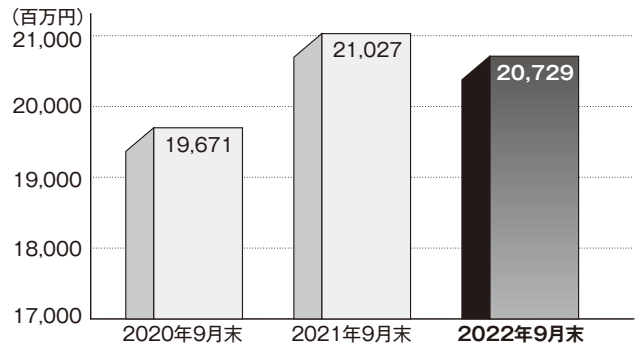
(自：2022年4月1日～至：2022年9月30日)

## 主要勘定の推移

### 預積金残高

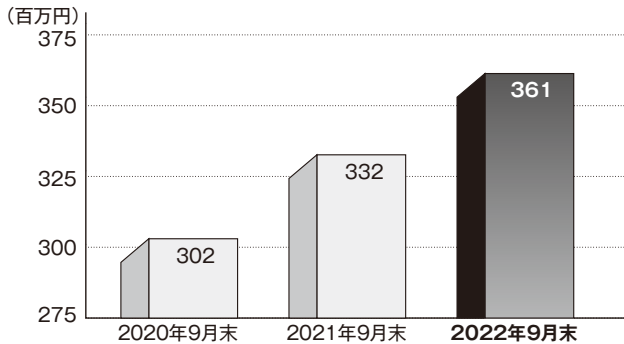


### 貸出金残高

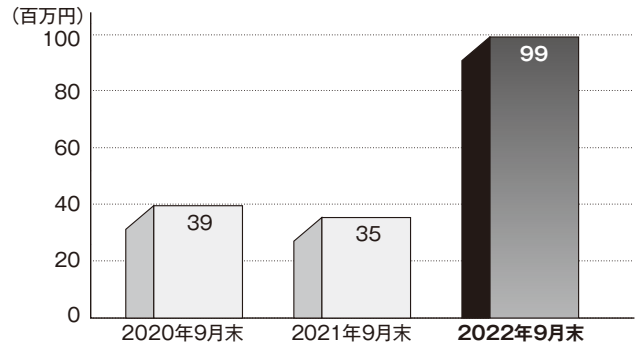


## 収益等の推移

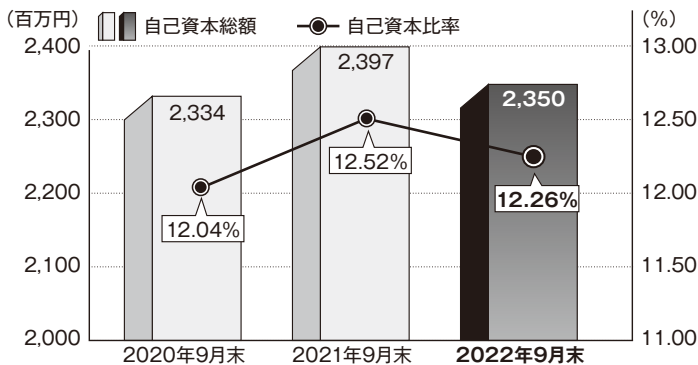
### 経常収益



### 当期純利益



## 自己資本比率・自己資本額の推移

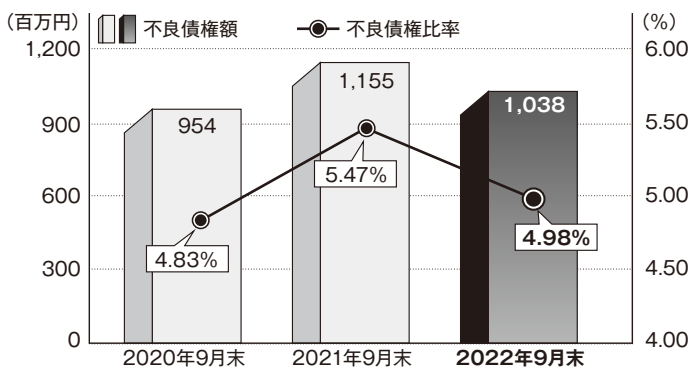


自己資本の額は順調に積み増しされておりますが、9月末現在の有価証券評価損により前年を下回る形となっております。自己資本比率は、国内のみで業務を行う金融機関は4%以上の水準が求められておりますが、当組合は国際基準でもある8%を大幅に超え、高い健全性が確保されております。

※リスクアセット上の自己資本総額となります。

## 不良債権比率・不良債権額の推移

### 金融再生法開示債権の推移



既存融資先の業況悪化防止のため、継続してソリューション支援（本業の改善）に取り組んでいる他、特殊プロジェクト、準プロジェクト先企業を選定し赤字体質からの脱却に向けて支援しております。また、不良債権回収に向けた取組みも効果を発揮しており、不良債権比率・不良債権額共に減少しております。



## 2022年度「半期決算」の報告

(自：2022年4月1日～至：2022年9月30日)

### 資産の部

(金額単位：百万円)

科 目	(A) 前期実績 2021年9月	(B) 今期予算 2022年9月	(C) 今期実績 2022年9月	予算対比 ((C) — (B))	実績対比 ((C) — (A))
( 資 産 の 部 )					
現 金	403	500	426	▲ 74	23
預 け 金	13,856	12,418	13,058	640	▲ 798
有 価 証 券	6,085	7,200	7,256	56	1,171
貸 出 金	21,027	21,040	20,729	▲ 311	▲ 298
そ の 他 資 産	264	250	249	▲ 1	▲ 15
有 形 固 定 資 産	491	475	477	2	▲ 14
無 形 固 定 資 産	1	1	1	0	0
繰 延 税 金 資 産	0	0	9	9	9
債 務 保 証 見 返	42	45	52	7	10
貸 倒 引 当 金	▲ 578	▲ 569	▲ 516	53	62
資 産 の 部 合 計	41,595	41,360	41,744	384	149

### 負債の部ならびに純資産の部

(金額単位：百万円)

科 目	(A) 前期実績 2021年9月	(B) 今期予算 2022年9月	(C) 今期実績 2022年9月	予算対比 ((C) — (B))	実績対比 ((C) — (A))
( 負 債 の 部 )					
預 金 積 金	38,096	38,070	39,248	1,178	1,152
借 用 金	700	700	0	▲ 700	▲ 700
そ の 他 負 債	93	80	77	▲ 3	▲ 16
各 種 引 当 金	72	80	77	▲ 3	5
繰 延 税 金 負 債	62	0	0	0	▲ 62
債 務 保 証	42	45	52	7	10
負 債 の 部 合 計	39,067	38,975	39,455	480	388
( 純 資 産 の 部 )					
出 資 金	403	399	400	1	▲ 3
利 益 剰 余 金	1,928	1,986	2,046	60	118
利 益 準 備 金	402	399	399	0	▲ 3
そ の 他 利 益 剰 余 金	1,525	1,587	1,646	59	121
当 期 未 処 分 剰 余 金	141	147	206	59	65
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	196	0	▲ 159	▲ 159	▲ 355
純 資 産 の 部 合 計	2,527	2,385	2,288	▲ 97	▲ 239
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	41,595	41,360	41,744	384	149

## 損益の部

(金額単位：百万円)

科 目	(A) 前期実績 2021年9月	(B) 今期予算 2022年9月	(C) 今期実績 2022年9月	予算対比 ((C) - (B))	実績対比 ((C) - (A))
経常収益	332	304	361	57	29
資金運用収益	298	289	292	3	▲6
貸出金利息	225	230	225	▲5	0
預け金利息	6	6	6	0	0
有価証券利息配当金	60	47	52	5	▲8
その他の受入利息	5	4	8	4	3
役務取引等収益	14	14	14	0	0
その他業務収益	0	1	1	0	1
国債等債券売却益	0	0	0	0	0
その他の業務収益	0	1	1	0	1
その他経常収益	18	0	52	52	34
貸倒引当金戻入益	0	0	52	52	52
その他の経常収益	18	0	0	0	▲18
経常費用	273	249	245	▲4	▲28
資金調達費用	5	5	4	▲1	▲1
預積金利息	5	5	4	▲1	▲1
借用金利息	0	0	0	0	0
その他の支払利息	0	0	0	0	0
役務取引等費用	12	12	10	▲2	▲2
その他業務費用	0	0	0	0	0
国債等債券売却損	0	0	0	0	0
その他の業務費用	0	0	0	0	0
経費	228	232	230	▲2	2
人件費	134	135	135	0	1
物件費	89	91	90	▲1	1
税金	3	5	4	▲1	1
その他経常費用	28	0	0	0	▲28
貸倒引当金繰入額	28	0	0	0	▲28
貸出金償却	0	0	0	0	0
その他の経常費用	0	0	0	0	0
経常利益	58	55	115	60	57
特別利益	0	0	0	0	0
固定資産処分益	0	0	0	0	0
その他の特別利益	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	0	0
固定資産処分損	0	0	0	0	0
その他の特別損失	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	58	55	115	60	57
法人税、住民税及び事業税	23	14	15	1	▲8
法人税等調整額	0	0	0	0	0
当期純利益	35	41	99	58	64
前期繰越金	106	106	106	0	0
当期末処分剰余金	141	147	206	59	65





## 2022年度(2023年3月末)「決算」の見込

(自:2022年4月1日~至:2023年3月31日)

### 資産の部

(金額単位:百万円)

科 目	(A)前期実績 2022年3月	(B)今期予算 2023年3月	(C)今期見込 2023年3月	予算対比 〔(C) — (B)〕	実績対比 〔(C) — (A)〕
( 資 産 の 部 )					
現 金	453	500	500	0	47
預 け 金	12,632	12,127	10,759	▲ 1,368	▲ 1,873
有 価 証 券	6,860	7,397	7,256	▲ 141	396
貸 出 金	20,576	21,076	20,746	▲ 330	170
そ の 他 資 産	260	260	260	0	0
有 形 固 定 資 産	489	469	469	0	▲ 20
無 形 固 定 資 産	1	4	4	0	3
繰 延 税 金 資 産	0	0	9	9	9
債 務 保 証 見 返	41	40	50	10	9
貸 倒 引 当 金	▲ 569	▲ 569	▲ 484	85	85
資産の部合計	40,747	41,304	39,569	▲ 1,735	▲ 1,178

### 負債の部ならびに純資産の部

(金額単位:百万円)

科 目	(A)前期実績 2022年3月	(B)今期予算 2023年3月	(C)今期見込 2023年3月	予算対比 〔(C) — (B)〕	実績対比 〔(C) — (A)〕
( 負 債 の 部 )					
預 金 積 金	37,349	37,849	37,008	▲ 841	▲ 341
借 用 金	700	700	0	▲ 700	▲ 700
そ の 他 負 債	97	90	90	0	▲ 7
各 種 引 当 金	78	87	87	0	9
繰 延 税 金 負 債	27	20	0	▲ 20	▲ 27
債 務 保 証	41	40	50	10	9
負債の部合計	38,294	38,786	37,235	▲ 1,551	▲ 1,059
( 純 資 産 の 部 )					
出 資 金	399	399	399	0	0
利 益 剰 余 金	1,958	2,034	2,095	61	137
利 益 準 備 金	402	399	399	0	▲ 3
そ の 他 利 益 剰 余 金	1,556	1,635	1,696	61	140
当 期 未 処 分 剰 余 金	172	191	256	65	84
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	94	85	▲ 160	▲ 245	▲ 254
純資産の部合計	2,453	2,518	2,334	▲ 184	▲ 119
負債及び純資産の部合計	40,747	41,304	39,569	▲ 1,735	▲ 1,178

## 損益の部

(金額単位：百万円)

科 目	(A) 前期実績 2022年3月	(B) 今期予算 2023年3月	(C) 今期見込 2023年3月	予算対比 [(C) - (B)]	実績対比 [(C) - (A)]
経 常 収 益	629	616	684	68	55
資金運用収益	578	583	599	16	21
貸出金利息	447	454	466	12	19
預け金利息	13	12	12	0	▲1
有価証券利息配当金	106	109	110	1	4
その他の受入利息	10	8	10	2	0
役務取引等収益	29	29	28	▲1	▲1
その他業務収益	4	4	4	0	0
国債等債券売却益	0	0	0	0	0
その他の業務収益	4	4	4	0	0
その他経常収益	18	0	0	0	▲18
貸倒引当金戻入益	0	0	52	52	52
その他の経常収益	18	0	0	0	▲18
経 常 費 用	523	495	497	2	▲26
資金調達費用	10	10	10	0	0
預積金利息	10	10	10	0	0
借入金利息	0	0	0	0	0
その他の支払利息	0	0	0	0	0
役務取引等費用	22	23	21	▲2	▲1
その他業務費用	0	0	0	0	0
国債等債券売却損	0	0	0	0	0
その他の業務費用	0	0	0	0	0
経 費	455	462	465	3	10
人 件 費	271	278	278	0	7
物 件 費	179	179	184	5	5
税 金	5	5	3	▲2	▲2
その他経常費用	34	0	0	0	▲34
貸倒引当金繰入額	34	0	0	0	▲34
貸出金償却	0	0	0	0	0
その他の経常費用	0	0	0	0	0
経 常 利 益	106	121	186	65	80
特 別 利 益	0	0	0	0	0
固定資産処分益	0	0	0	0	0
その他の特別利益	0	0	0	0	0
特 別 損 失	0	0	0	0	0
固定資産処分損	0	0	0	0	0
その他の特別損失	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	106	121	186	65	80
法人税、住民税及び事業税	37	36	36	0	▲1
法人税等調整額	3	0	0	0	▲3
当期純利益	66	85	150	65	84
前期繰越金	106	106	106	0	0
当期末処分剰余金	172	191	256	65	84





## ● 金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額の状況

(金額単位：千円)

区 分	年度別	債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D)=(B)+(C)	保全率 (D)/(A)	貸倒引当金引当率 (C)/((A)-(B))
破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	2020年9月	79,847	19,321	60,526	79,847	100.00 %	100.00 %
	2021年9月	67,733	18,623	49,110	67,733	100.00 %	100.00 %
	2022年9月	28,818	4,672	24,146	28,818	100.00 %	100.00 %
危 険 債 権	2020年9月	666,706	219,774	427,254	647,028	97.05 %	95.60 %
	2021年9月	691,615	217,097	462,525	679,622	98.27 %	97.47 %
	2022年9月	646,269	211,043	428,448	639,492	98.95 %	98.28 %
要管理債権	2020年9月	207,455	60,417	26,657	87,074	41.97 %	18.13 %
	2021年9月	395,746	88,712	44,155	132,867	33.57 %	14.38 %
	2022年9月	363,627	83,687	41,067	124,754	34.31 %	11.29 %
不良債権計	2020年9月	954,009	299,512	514,437	813,949	85.32 %	78.60 %
	2021年9月	1,155,093	324,432	555,790	880,222	76.20 %	66.91 %
	2022年9月	1,038,715	299,403	493,662	793,065	76.35 %	47.52 %
正 常 債 権	2020年9月	18,779,141					
	2021年9月	19,953,405					
	2022年9月	19,780,046					
合 計	2020年9月	19,733,150					
	2021年9月	21,108,498					
	2022年9月	20,818,761					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。  
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。  
3. 「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権です。  
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。  
5. 「担保・保証等(B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。  
6. 「貸倒引当金(C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。

年度	不良債権比率
2020年9月	4.83 %
2021年9月	5.47 %
2022年9月	4.98 %

## ● 有価証券の時価等情報

### 1. 満期保有目的

(金額単位：百万円)

項 目	2021年9月			2022年9月			
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額	
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	債券	-	-	-	-	-	
	国債	-	-	-	-	-	
	地方債	-	-	-	-	-	
	社債	-	-	-	-	-	
	その他	500	537	37	100	104	4
	小計	500	537	37	100	104	4
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	債券	-	-	-	-	-	
	国債	-	-	-	-	-	
	地方債	-	-	-	-	-	
	社債	-	-	-	-	-	
	その他	300	287	▲13	700	628	▲71
	小計	300	287	▲13	700	628	▲71
合計	800	824	24	800	733	▲66	

### 2. その他有価証券

(金額単位：百万円)

項 目	2021年9月			2022年9月			
	貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額	
貸借対照表計上額が取得減価を超えるもの	株式	105	99	6	247	223	23
	債券	2,130	1,999	131	1,087	997	90
	国債	1,724	1,595	129	1,087	997	90
	地方債	-	-	-	-	-	-
	社債	405	403	2	-	-	-
	その他	1,192	1,029	163	692	571	121
	小計	3,428	3,127	300	2,027	1,792	234
	株式	96	99	▲2	113	124	▲10
	債券	1,284	1,297	▲13	3,097	3,390	▲292
	国債	886	897	▲11	2,317	2,587	▲269
地方債	-	-	-	-	-	-	
社債	397	400	▲2	780	803	▲23	
その他	461	474	▲13	1,202	1,292	▲90	
小計	1,841	1,871	▲29	4,413	4,807	▲392	
合計	5,270	4,999	271	6,440	6,600	▲159	

### 3. 時価評価されていない有価証券

(金額単位：百万円)

項 目	2021年9月 貸借対照表 計上額	2022年9月 貸借対照表 計上額
その他有価証券	15	15
非上場株式	15	15
非上場外国証券	-	-

## ● 地域貢献に関する情報開示

### 地域に貢献するしおしの経営姿勢

当組合は、新潟県南部の魚沼エリアを営業区域とし、地元の中小零細事業者や住民が組合員となって、お互い助け合い、発展していくという相互扶助の精神に基づき運営されている協同組合組織金融機関です。

中小零細事業者や住民一人一人の顔が見えるさめの細かな取引を基本としており、常に組合員の事業の発展や生活の質の向上に貢献するため、組合員の利益を第一に考えることを基本としております。

また、地域社会の一員として、当組合の経営資源を活用し、地域社会の生活の質や文化の向上に積極的に取り組んでおります。

これからも、組合員の豊かな暮らしづくりに奉仕するために、円滑な資金供給と金融サービスを提供していくことはもちろんのこと、文化的・社会的貢献活動を通じ、組合員の暮らしにうおいを与え、地元振興に積極的に資する、地元の金融機関として在り続けます。

### 融資を通じた地域貢献

地元中小企業及び個人のお客様をはじめとする地域への円滑な資金供給を重要な使命と捉え、新商品の提供などを通じて、地域のお客様の資金のニーズにお応えします。

#### 貸出金業種別残高・構成比

(単位：百万円、%)

業 種 別	2021年9月		2022年9月	
	金 額	構成比	金 額	構成比
製 造 業	1,837	8.7	1,862	9.0
建 設 業	1,313	6.2	1,385	6.7
卸 売 ・ 小 売 業	2,584	12.3	2,570	12.4
各 種 サ ー ビ ス 業	4,734	22.6	4,998	24.0
そ の 他 の サ ー ビ ス	1,664	7.9	1,548	7.5
小 計	12,132	57.7	12,363	59.6
地 方 公 共 団 体	3,249	15.5	2,914	14.1
個 人 ( 住 宅 ・ 消 費 ・ 納 税 資 金 等 )	5,645	26.8	5,451	26.3
合 計	21,027	100.0	20,729	100.0

※金額は単位未満切り捨て、構成比は単位未満四捨五入で表示しております。

### 中小企業等金融円滑化に関する取組み

私どもの「融資」は、不安を解消し、安心を提供するもの。『融資は“安心”の提供であり、不安を解消するための手段である。』と言い切る。貸したところから“真”の付き合いが始まり、返し終わるまで、とことん面倒を見る「永続伴走型」の支援である。

小さいものや力の弱い者の味方として力を貸す。世のため人のための信用組合として「保証づけ」や「過剰融資」により負担を強いられている企業を支援する。

金融機関との付き合い方が優先する時代ではなく、本業に関するアドバイスなど、しっかり事業者のための支援をしてくれる「金融機関」を選ぶ時代である。

私どもは「選ばれる金融機関」になるために、キャッシュフローを導き出して、事業者が本業に傾注出来るご支援を徹底することを決めました。

### 経営者保証に関するガイドラインへの対応

当組合では「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨を十分に踏まえ、お客様から借入や保証債務の整理について相談を受けた際には、誠実に対応する態勢を整備しております。

経営者保証の必要性については、お客様との丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務状況を把握し、同ガイドラインの内容を踏まえて充分検討するなど、適切な対応に努めております。そのうえで継続的かつ良好な信頼関係の構築と経営改善支援に取り組んでいます。

経営者保証に関するガイドラインの取組み状況	2021年 9月	2022年 9月
新規に無保証で融資した件数 (ABLを活用し無保証で融資したものは除く)	14	57
新規融資に占める経営者保証に依存しない 融資の割合	1.70	6.66
保証契約を解除した件数	3	2
ガイドラインに基づく保証債務整理の 成立件数	0	0



## 顧客の組織化と活動実績

### 参加企業49社、若者109名により「地域同期会」を発足

#### 若者同士のネットワークづくりを促進

企業の若手社員のネットワークづくりと雇用定着を狙いとして「地域同期会」を開催しました。

参加企業49社から、20～30代の109名が参加し、グループディスカッションなどで交流を図りました。5つの営業店でそれぞれ会場を設営し、オンラインで小野澤理事長の開会挨拶を中継。

その後のグループ討議では「働きやすい職場とは」「仕事の魅力や、やりがい」「自分の将来ビジョン」について話し合いました。参加者からは「違う分野の同世代と交流できて有意義な時間を過ごすことができた」との声が聞かれ、その様子は数多くの新聞等メディアに取り上げられております。



## 取引先の若手社員 離職防止へ

### 塩沢信組が「地域同期会」 同年代と悩みを共有

# 会社の枠超え関係づくり



会社の枠を超えたネットワークをつくり若者の定着率向上を目指す塩沢信用組合の地域同期会＝南魚沼市小栗山の「ほてる木の芽坂」

塩沢信用組合（南魚沼市、小野澤一成理事長）は地元企業の若手社員を対象に、会社の枠を超えたネットワークづくりを進めている。「地域同期会」と名付けた取り組みで、狙いは近年多い入社数年での離職の防止だ。同信組の取引先は中小零細企業が中心のため、新人社員に「同期」がない、少ないというケースが多い。社を超えた「同期」のつながりをつくり、定着率向上を目指す。

同信組は7月上旬、南魚沼市津南町など5カ所を同時に「地域同期会」を開いた。取引先を対象に募集し、同信組を含む49社から計109人が参加した。

各会場では「働きやすい職場とは」などをテーマにグループ討議を実施。金融知識を問う「や津南町など5カ所を同時に」を楽しむ、夕食会で交流を深めた。

参加者の一人、学校法人に勤める保育士、上村瑞穂さん(29)は「同じような年代が大勢まつて、感じることは同じと実感。若い人の考えを聞いて参考になる。人間関係がよい会社をみ



30代も参加。リゾート関係企業に勤める佐川遼太郎さん(31)は「同じような年代が大勢まつて、感じることは同じと実感。若い人の考えを聞いて参考になる。人間関係がよい会社をみ

同信組は今後、2回目、3回目的の同期会を開くことにしている。小野澤理事長は「地域同期会を通して社内同期がいなくても、近くの会社について、仕事が終われば飲みに行けるような関係をつくりたい」と話す。

今春採用の社員を参加させた南魚沼市内の企業の社長は「視野が広がり、刺激になったと思う」とし、「回数を重ねていく形にしてほしい」と期待している。

この間、100社の採用実績数は伸び、21年度は約220人（パートを含む）に達したが、一方で定年も含めた退職者数を引くと、年度末での人員の純増は約60人にとどまった。

要因として考えられるのが若手の退職で、同信組の高橋清隆常勤理事は「肌感覚」と断りながら、「新人が3年以内に退社してしまうのは3割くらいではないか」とみる。

こうした状況から同信組が打ち出したのが地域同期会だ。仕事の悩みを相談したり親睦を深めたりして人間関係をつくる場を設けることで離職を防ぎ、各社の若手の定着を目指す。

同信組は2017年から、取引先企業の採用支援力を入れている。取引先の「ベストパートナー企業100社」を対象に会社案内やPR動画の製作などを手伝っているほか、地元企業と学生を集めた「うおぬま就職応援フェア」を開催。ウェブによる企業説明会も開いている。

塩沢信組は2017年から、取引先企業の採用支援力を入れている。取引先の「ベストパートナー企業100社」を対象に会社案内やPR動画の製作などを手伝っているほか、地元企業と学生を集めた「うおぬま就職応援フェア」を開催。ウェブによる企業説明会も開いている。



## ● 2022年度上半期「外部機関との連携」「文化的・社会的貢献・地域貢献」に関する活動

4月12日(火)	「全店営業車両総点検・安全運転宣言」(ふれあい広場)	
20日(水)	「塩沢商工会支部総会」(福原店長)	
5月12日(木)	「総代地区会議」(石打地区) 会場: 湯沢町公民館 「総代地区会議」(津南地区) 会場: 津南町商工会	
13日(金)	「総代地区会議」(五日町地区) 会場: ふれあい支援センター 「総代地区会議」(小出郷地区) 会場: 小出ボランティアセンター	
16日(月)	「総代地区会議」(本店地区) 会場: 塩沢商工会	
20日(金)	「NY新潟県人会」大坪会長面談(小野澤理事長)	
23日(月) ~24日(火)	「京都産業大学」理事長講座	
24日(火)	「塩沢商工会通常総代会」(上村監事)	
25日(水)	「南魚沼市起業・創業関連図書贈呈式」	
6月3日(金)	「全店ボランティア清掃」6月~9月実施	
21日(火)	「通常総代会」(南魚沼市民会館・大ホール)「未来基金報告会」 「特別講演会」(松本和明氏)	
7月1日(金)	「南魚沼市への寄付贈呈式」「地元貢献団体への表彰式」(木の芽坂)	
7日(木)	ベストパートナー企業「地域同期会」(5会場同時開催)	
8日(金)	「夏期賞与支給日」地域還元型賞与3万円支給	
16日(土)	塩沢商工会共催「少年野球大会」	
23日(土)	職員と地域住民が一体となった「防災訓練」実施	
8月7日(日)	魚沼の未来基金「思い出づくり日帰りバスツアー」	
8月15日(月) ~9月9日(金)	「杏林大学」インターンシップ学生3名受入	
8月29日(月) ~9月2日(金)	「京都産業大学」インターンシップ学生2名受入	
9月2日(金)	「地域合同・防犯訓練」(各店及びリモート開催)	
22日(木)	「地域金融変革運動体セミナー」(小野澤理事長登壇)	
27日(火)	「秋の交通安全指導」(石打SA) 当組合ハイウェイ大使	



7月23日 防災訓練



9月2日 防犯訓練



9月22日 地域金融変革運動体セミナー



## ● 地域を応援する取組み

### ■「南魚沼市への寄付贈呈式」並びに「地元貢献団体への表彰式」

7月1日に13年連続の好決算を記念して「南魚沼市への寄付贈呈式」並びに「地元貢献団体への表彰式」を開催しました。地元自治体を代表して、南魚沼市へ寄付金100万円を贈呈し、地域貢献に取組む6団体それぞれに賞状と奨励金5万円を贈呈しました。




### ■表彰された地元6団体のコメント

**塩沢芸能保存会**

**活動内容**

塩沢地域の伝承曲である「塩沢天神ばやし」「塩沢はねおけさ」などを伝承する事を目的に結成された団体であります。近年は発表の機会が減少しておりますが、「塩沢まつり」、「雪譜まつり」に出演するなど、郷土芸能の価値を伝えるべく、活動を行っております。




**奨励金贈呈のコメント**

この度は、奨励金をいただき大変ありがとうございました。発表会の機会も少しずつ増えてきております。活動費として有効に活用させていただきます。

**六日町御実城太鼓保存会**

**活動内容**

昭和47年10月に結成され、今年で50年。「御実城」＝「本城」上杉軍の出陣に打ち鳴らす陣太鼓として受け継がれています。県内外の宿泊施設などから要請され演奏しています。また、小学校の子供たちに伝統芸能継承の為、指導する活動も行っています。




**奨励金贈呈のコメント**

この度は、奨励金をいただき誠にありがとうございました。今後の活動の励みになります。50周年記念事業を検討しており、有効に活用させていただきます。

**ピーステーブルたすけあい食堂**

**活動内容**

湯沢町で初めて「たすけあい食堂」を運営している団体です。湯沢町の有志で立ち上げ2021年7月から活動を開始しました。新潟日報やテレビ局にも取り上げられ話題を呼びました。毎週水曜日、週1回程度開催しており、子供だけでなく誰もが利用できます。中学生以下の子供は無料、高校生以上の大人は300円の有料で運営しています。大人料金の売上を基本原資として運営し、食材などの現物寄付とボランティアにて運営しています。




**奨励金贈呈のコメント**

この度は表彰と奨励金を贈呈していただきありがとうございます。地域でたすけあい、一人でも多くの方を笑顔にするために継続していきたいと思っております。

**和道流空手「五空会」**

**活動内容**

五十沢地域を中心に、20年間に渡り近隣の小学生や中学生に空手道を通じて健全な精神と頑健な身体をつくり、生活の中で礼を重んじる姿勢を教えながら、体と心の育成を行っております。活動拠点は、夏は五十沢小学校、冬は五十沢開発センターを借りて週2回の練習を行っております。生徒数は現在20数名と年々減少しておりますが、子供たちの元気な声を聞く事を張り合いに稽古に取り組んでおります。




**奨励金贈呈のコメント**

13年連続好決算地元貢献団体として表彰頂き、ありがとうございました。子供たちの防具も大変古くなっており、入替えに利用させて頂きたいと思っております。

**外丸山の会**

**活動内容**

1年を通じ登山道および、山頂の整備を行っております。毎年秋に登山会を開催、津南町内外より多くの方から参加していただいております。今年は登山道開通10周年であり、記念イベントを実施いたします。




**奨励金贈呈のコメント**

11/5(土)に、「外丸山の会」発足10周年記念登山を開催予定で、その準備金や今後の登山道整備費用に使わせてもらいます。今回は本当にありがとうございました。

**魚沼太鼓**

**活動内容**

魚沼市内で活動する和太鼓集団として芸術文化活動を継続し、地域イベントに出演。定期演奏会は小出郷文化会館にて年1回開催。「魚沼太鼓」「響」「鼓悠」「越後招福太鼓」「鬼面獅子山太鼓」から構成し、各地域の伝統芸能を継承しています。また子ども太鼓集団「響」の育成で小・中学生への太鼓の指導等をして、次世代へ太鼓の魅力を伝える活動にも力を入れています。



**奨励金贈呈のコメント**

この度は表彰と奨励金を贈呈していただきありがとうございます。コロナ禍中ではありますが、定期演奏会も無事3回目を迎え、350人を超えるご来場を頂きました。今後の自主公演も頑張っていきたいと思っております。



## ● 中小企業の経営支援に関する取組み

### ■「CDP」既存融資取引先、「特殊プロジェクト・準プロジェクト」先の支援実績

CDPとは、既存融資取引先の全先を対象として行う事業であり、取引先企業の業況悪化防止のため継続してソリューション支援（本業の改善）に取り組む事業です。また、各店5先「全店25先」を特別重点支援先として取組み、赤字体質からの脱却に向けて支援しています。

2022年度上半期の取組みにより、9月末現在において既存融資取引先の全先のランクダウンを防止しました。



### ■「STF」新規融資取引先の支援実績

STFとは、新規融資先を対象として行う事業であり、業況が思わしくない事業先に対してトリアージ（優先順位付け）を行い、当組合のオリジナル支援内容をお伝えしています。当組合が他行融資の一部を肩代わることによってメイン銀行の支援が膠着状態から抜け出し、新たな「追加融資」や「条件変更」が可能になるとい、銀行側にもメリットのある“三方良し”の他行共存型の提案を行っております。

2022年度上半期の取組みにより、全店で49先、476百万円の新規融資実績に繋がっております。



### ■当組合の新たな取組みについて新潟日報「社説」に掲載されました

社説

産業と暮らしを支える力に

#### 信組の営業拡大

地域に根差した金融機関の新たな取組みだ。小規模事業者の経営を支えて地元の産業振興を図るとともに、地域住民の暮らしを守る役割を果たしてもらいたい。

魚沼地域を基盤とする塩沢信用組合（南魚沼市）が2023年9月に名称を「ゆきぐに信用組合」に変更し、営業地区を長野県栄村

などに拡大することになった。信組が合併を伴わず、県境をまたいで営業地区を拡大するのは珍しい。財務基盤の安定を背景に、拡大は将来的な経営の発展につながるかと判断した。

営業地区は小千谷市、松代、松之山を含む十日町市全域などにも拡大する。小野澤一成理事長は「松代、松之山、栄村は金融空白地帯といわれる場所も多く、住民の生活を支える」と狙いを話す。

信組は銀行などと異なり、営業エリアを定款に記載する。顔の見えない中山間地で住民の多くを高齢者エリアを定款に記載する。顔の見えない。

塩沢信組は新たな営業地区で、業務内容を絞ったサテライト型店舗の設置や、公的施設の空きスペースでの出張窓口開設などを検討している。

津南町に隣接する栄村の人口は約1600人だ。農協や郵便局ゆえに、ウイリス対策で実施した実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」は資金需要が一巡し、借り入れたル対応が苦手な人もいるだろう。交通手段が限られ、自力で金融機関に行くのも容易ではない。

住民に寄り添ったサービスが求められるのは当然だ。新名称の「ゆきぐに」に込めた相互扶助の精神を發揮してほしい。

金融機関を取り巻く環境は厳しい。人口減や低金利が収益を圧迫し、ウイリス禍や原材料高は取引先に悪影響を及ぼしかねない。

県内10信用組合の22年3月期決算をみると、取引先の業績悪化に備えて与信関連費用を積み増すなどしたため、5信組で純利益が減益となった。

ウイリス対策で実施した実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」は資金需要が一巡し、借り入れた事業者の返済が本格化する。資金繰りが厳しくなれば、経営破綻が懸念される事業者もある。

中小零細事業者と接する機会が多い信組には取引先の経営自体を改善する本業支援も不可欠だ。

一方で「オーバードラッグ」と呼ばれる状態の県内の金融機関も、合理化を避けて通れない。

はばたき信組（新潟市江南区）と三條信組（三条市）は、23年12月をめぐりに合併することで合意した。既に21年1月、地銀2行が合併して第四北越銀行（新潟市中央区）が発足している。

選ぶ手段は違っても、住民の利便性向上を目的に、地域を支える金融機関として共存共栄の道を探ってもらいたい。

新潟日報 2022年9月25日付





## ● 顧客保護に関する取組み

### ■防犯・防災・災害メールの登録推進

魚沼地域内においても特殊詐欺が多様化しており、自然災害も身近なものになってきています。当組合にて年金を受給している高齢者に対して、特殊詐欺関連情報や災害情報など、行政や警察署から速やかに情報が受け取れるよう、防犯メールの登録を推奨しております。スマホの操作についても、職員が丁寧に手順をお教えしています。



### ■マネーロンダリング対策・サイバーセキュリティ対策・BCP体制強化

お客様からお預かりしている大切な資産を守るため、当組合ではマネーロンダリングに関する体制整備、サイバーセキュリティ対策、BCP（災害時における事業継続計画）体制の強化を図っております。体制整備に関する本部体制の強化や、全職員参加による研修会の実施など、不測の事態に備えた準備を行っております。



## ● SDGs宣言への取組み

4 質の高い教育をみんなに



### 「はばたき奨学生」思い出づくり日帰りバスツアー

#### ■魚沼の未来基金奨学生が地元企業や名所を見学

将来の職業選択の参考に、そして郷土愛を育むことを目的として「はばたき奨学金」を受給している奨学生を対象に「思い出づくり日帰りバスツアー」を開催しました。地元企業4社の説明と見学を行ったほか、大地の芸術祭や国の重要文化財を見学しました。



8 働きがいも経済成長も



### 全体勉強会「グループミーティング」

#### ■世代を超えて“働きがい”について討論

定期的で開催している職員の年代別討論会について、職員からの意見を取り入れて「世代を超えたグループミーティング」として実施しました。金融機関職員としての基本的な素養を身に着けると共に、いかにして働きがいに繋げるかを各グループが真剣に議論しました。



# 2022 DISCLOSURE

The first half of the year

## 2022年度上半期 業績のご報告

2023年9月19日(火)より

組合名称は「ゆきぐに信用組合」へ

営業地区は「小千谷市」

「十日町市（旧松之山町、旧松代町）」

「長野県栄村」が追加となります

(※監督官庁からの許可承認をもって変更となります)



拡大する地区

上越市

旧松代町

旧松之山町

津南町

長野県

栄村

湯沢町

十日町市

南魚沼市

魚沼市

長岡市

長岡市  
(旧川口町)

小千谷市

柏崎市

三条市

福島県

群馬県

魚沼の  
塩沢信用組合

本部しんくみセンター

〒949-6408 新潟県南魚沼市塩沢1221番地4  
TEL (025) 782-1201代 FAX (025) 782-4063  
ホームページ <http://www.shiozawa.shinkumi.jp/>  
メールアドレス [shinkumi@pluto.plala.or.jp](mailto:shinkumi@pluto.plala.or.jp)



本店 〒949-6408 新潟県南魚沼市塩沢1198

石打支店 〒949-6371 新潟県南魚沼市関1124番地1

五日町支店 〒949-7101 新潟県南魚沼市五日町387番地1

津南支店 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊543番地3

小出郷支店 〒946-0076 新潟県魚沼市井口新田547番地15

TEL (025) 782-1151代

TEL (025) 783-2962代

TEL (025) 776-2691代

TEL (025) 765-3125代

TEL (025) 792-7766代